

診療科を選んだ理由

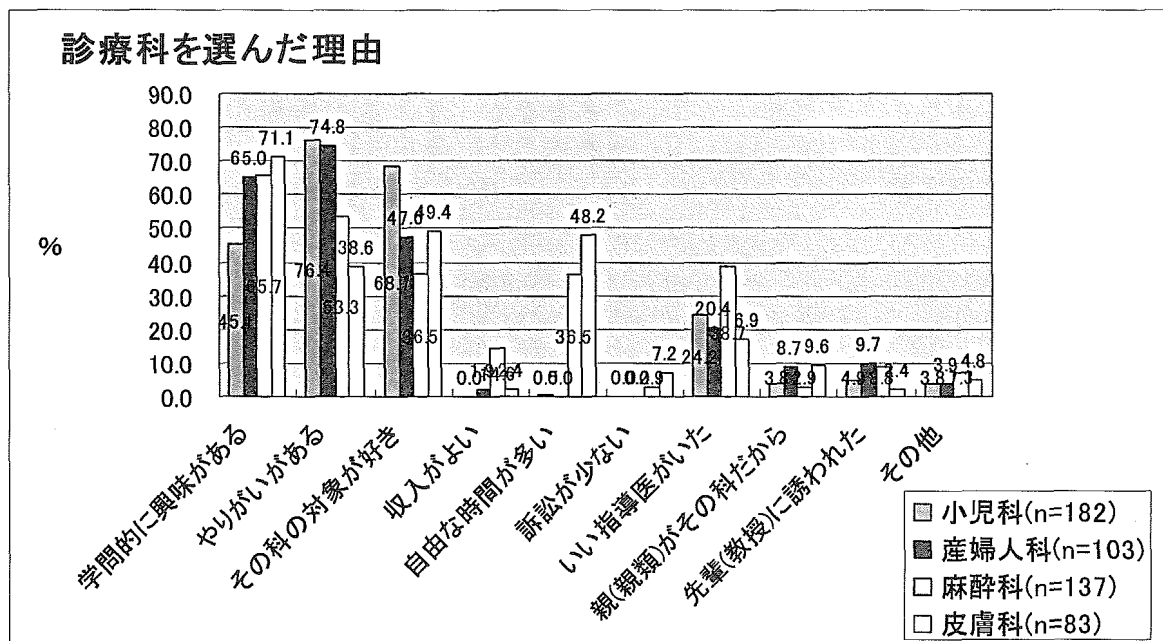
小児科、産婦人科、麻酔科、皮膚科について、その科を選んだ理由を集計した結果は以下の通り。

小児科を選んだ理由として、最も多いのは、「やりがいがある」の76.4%。

産科を選んだ理由として、最も多いのは、「やりがいがある」の74.8%

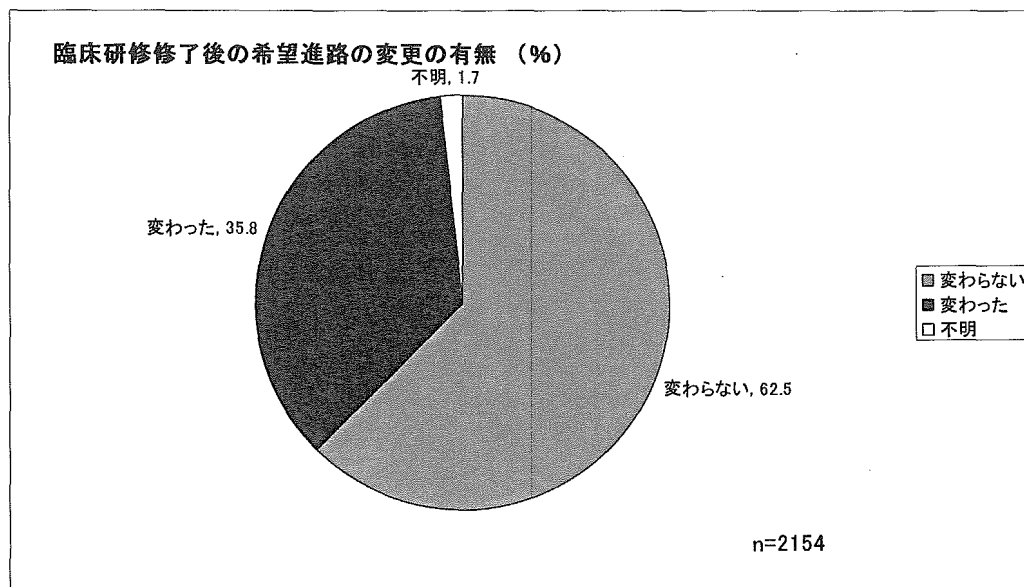
麻酔科を選んだ理由として、最も多いのは、「学問的に興味がある」の65.7%。

皮膚科を選んだ理由として、最も多いのは、「学問的に興味がある」の71.1%。



問 19-2 臨床研修の前後で進みたい診療科が変わったか。

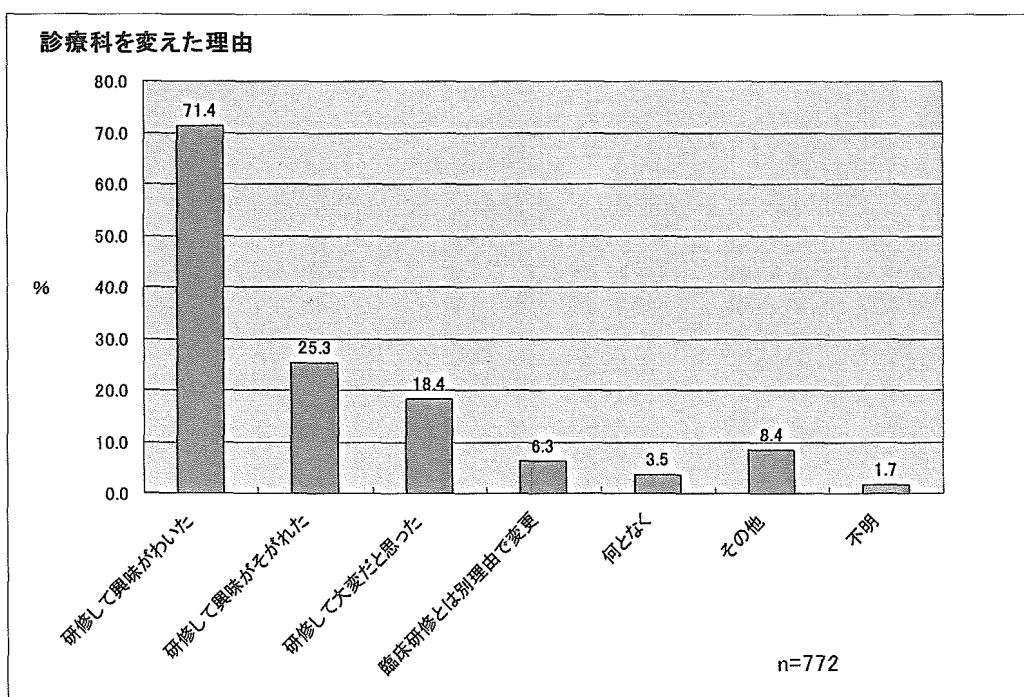
希望する診療科を決めている者のうち、臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた者は 35.8%であった。



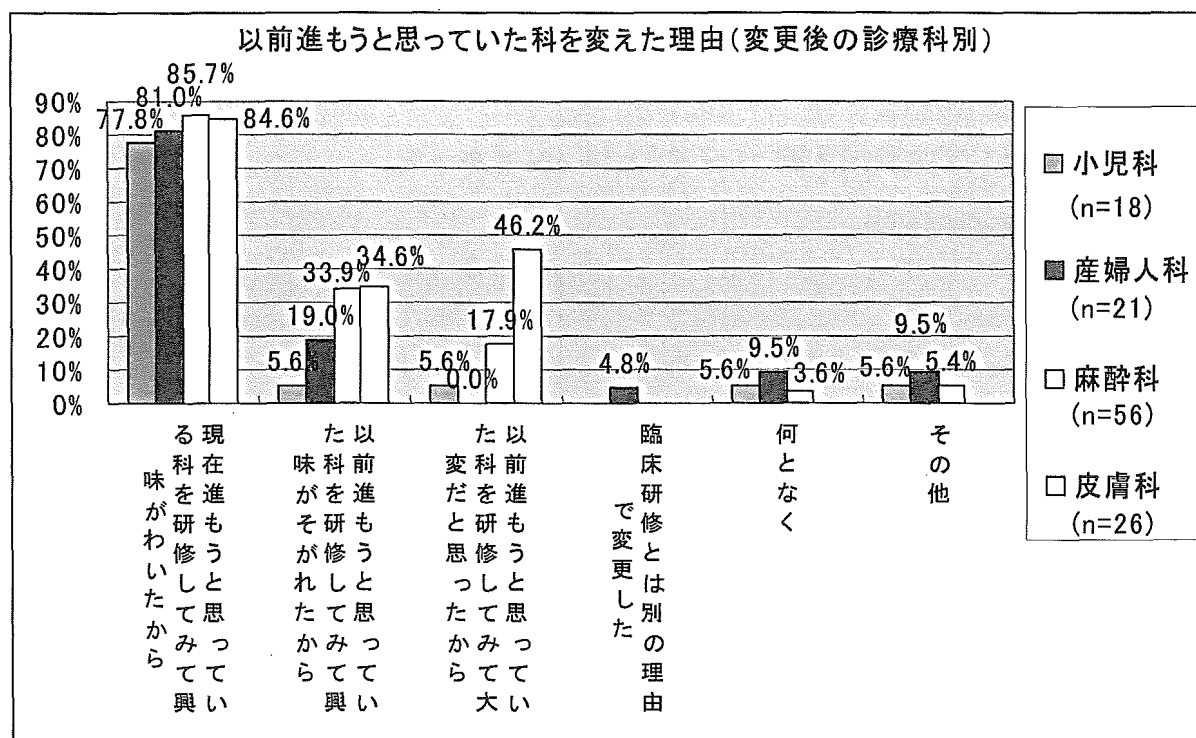
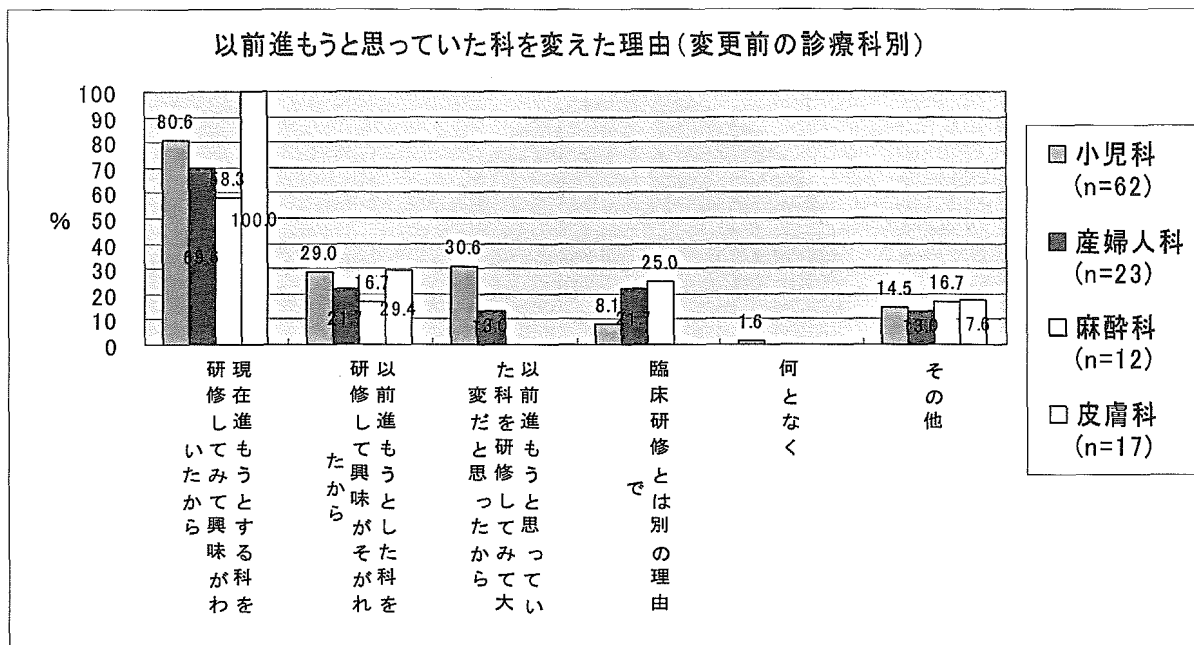
問 19-2-2 臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた理由

臨床研修の前後で進みたい診療科を変えた理由で最も多かったのは、「研修して興味がわいたから」で、71.4%であった。

「研修して大変だと思った」のは 18.4%であった。



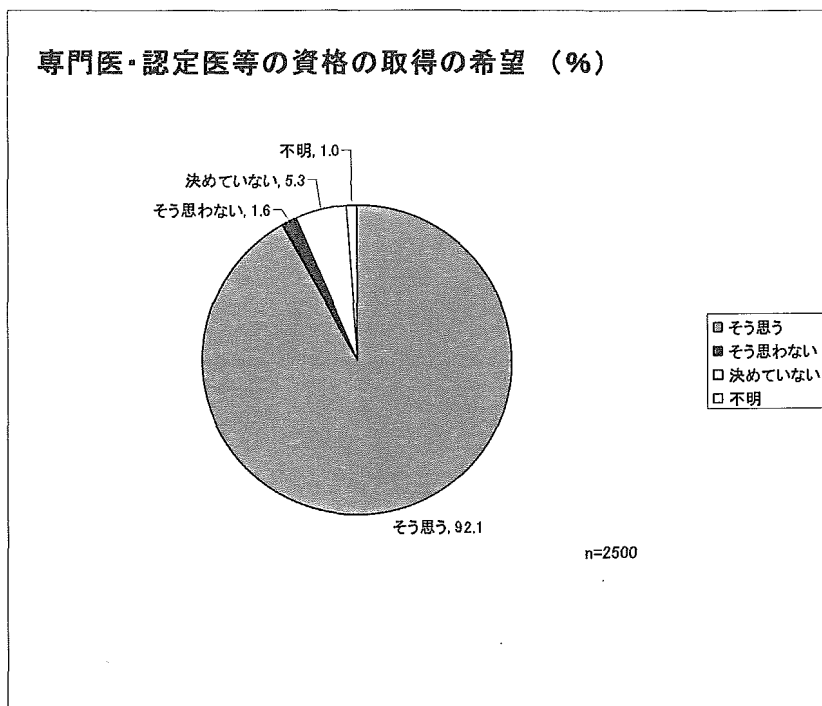
小児科、産婦人科、麻酔科、皮膚科について変更した理由を集計した結果は以下の通り。



[3] 専門医等の取得について（問20～問21）

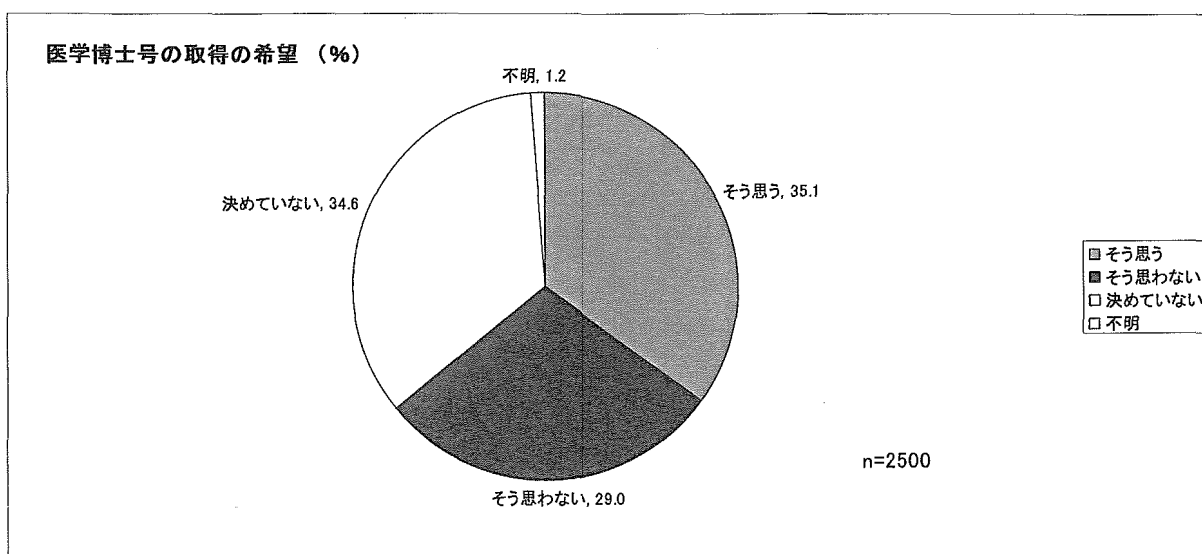
問20 専門医・認定医等の資格の取得の希望

92.1%が取りたいと答えた。



問21 医学博士号の取得の希望

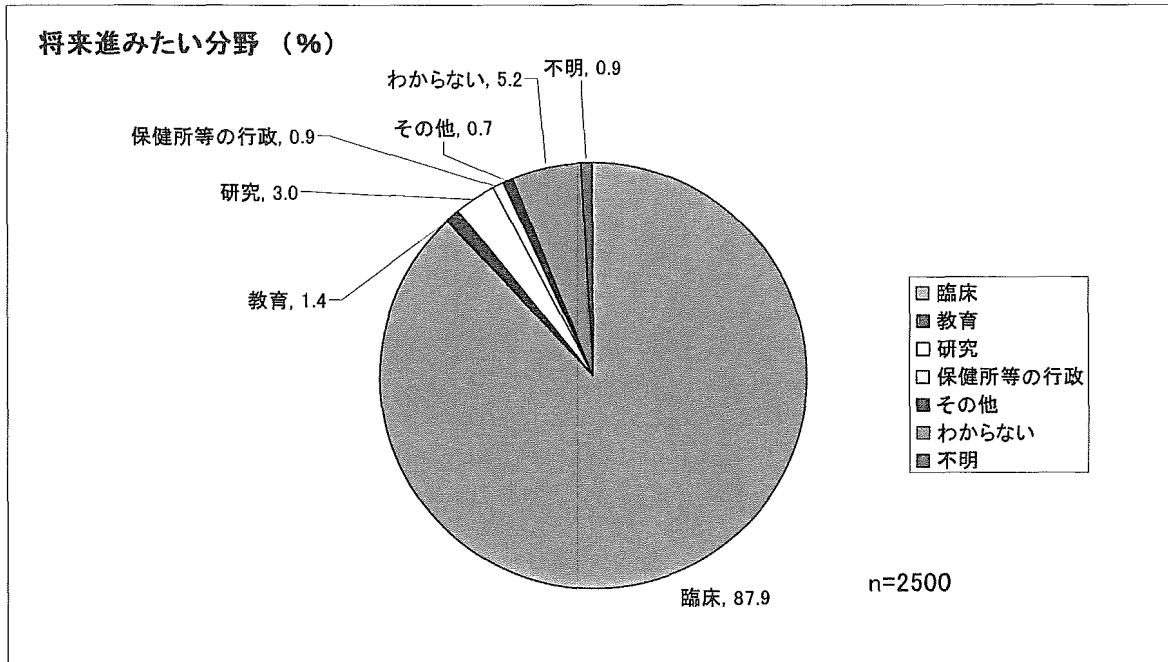
取りたいと思う者が35.1%、取りたいと思わない者が29.0%であった。



[4] 将来の進路について（問22）

問22 将来進みたい分野

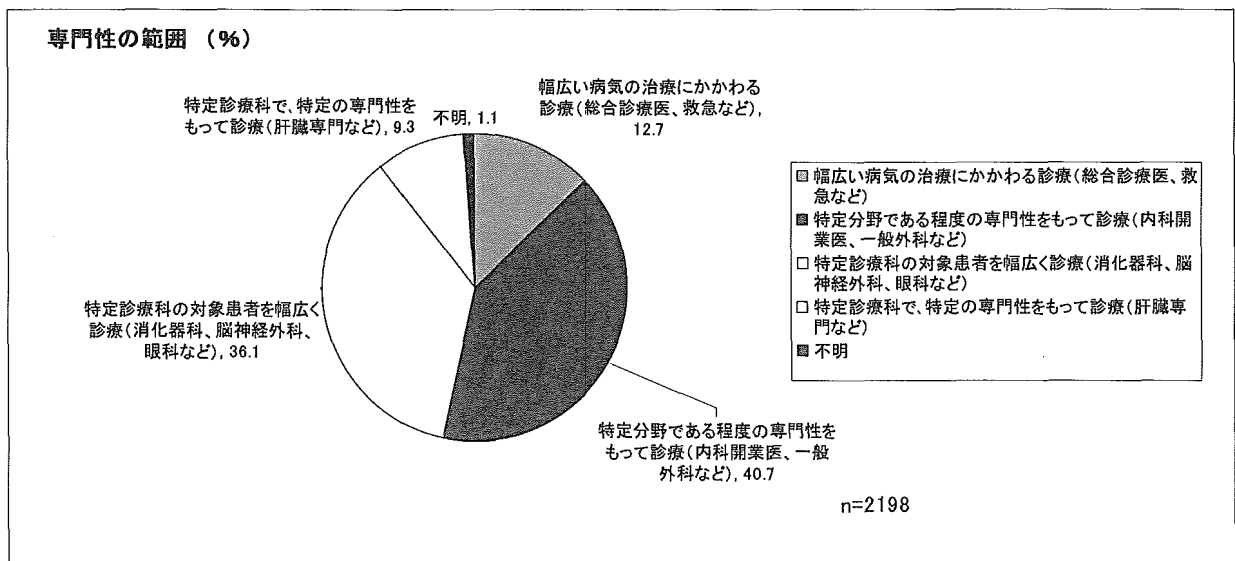
臨床に進みたい者が87.9%であった。



問22-1 専門性の範囲

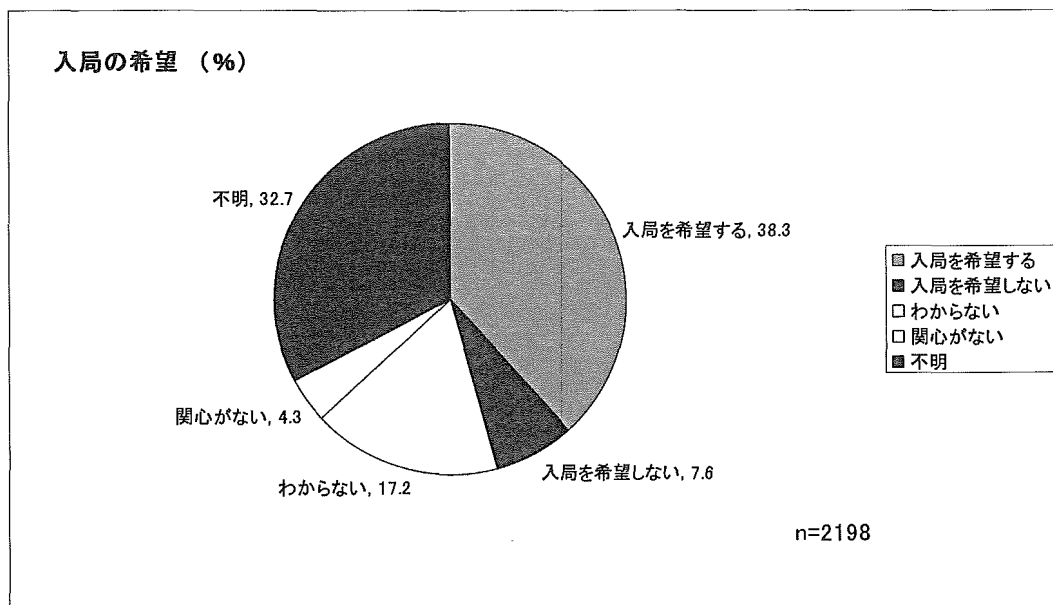
問22で臨床に進みたいと選んだ者に、専門性をどのようにしたいか尋ねた。

「幅広い病気の治療に係わりながらも、特定の分野で、ある程度の専門性を持って診療したい」が40.7%、「特定の診療科の対象患者を幅広く治療する医師として診療したい」が36.1%であった。



問22-2 大学の医局へ入る希望

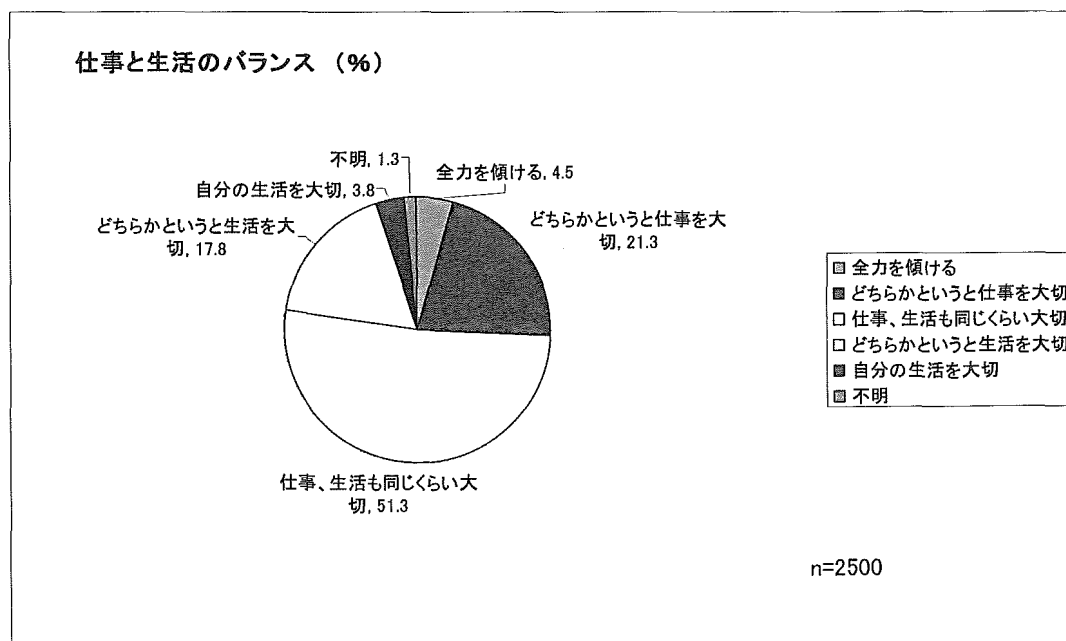
問22で臨床に進みたいと答えた者に、将来、大学の医局へ入る希望があるか尋ねた。「入局を希望する」が38.3%、「入局を希望しない」は7.6%だった。



[5] 仕事と生活とのバランスについて (問23)

問23 将来、仕事と自分の生活のバランスをどのようにしたいと考えているか

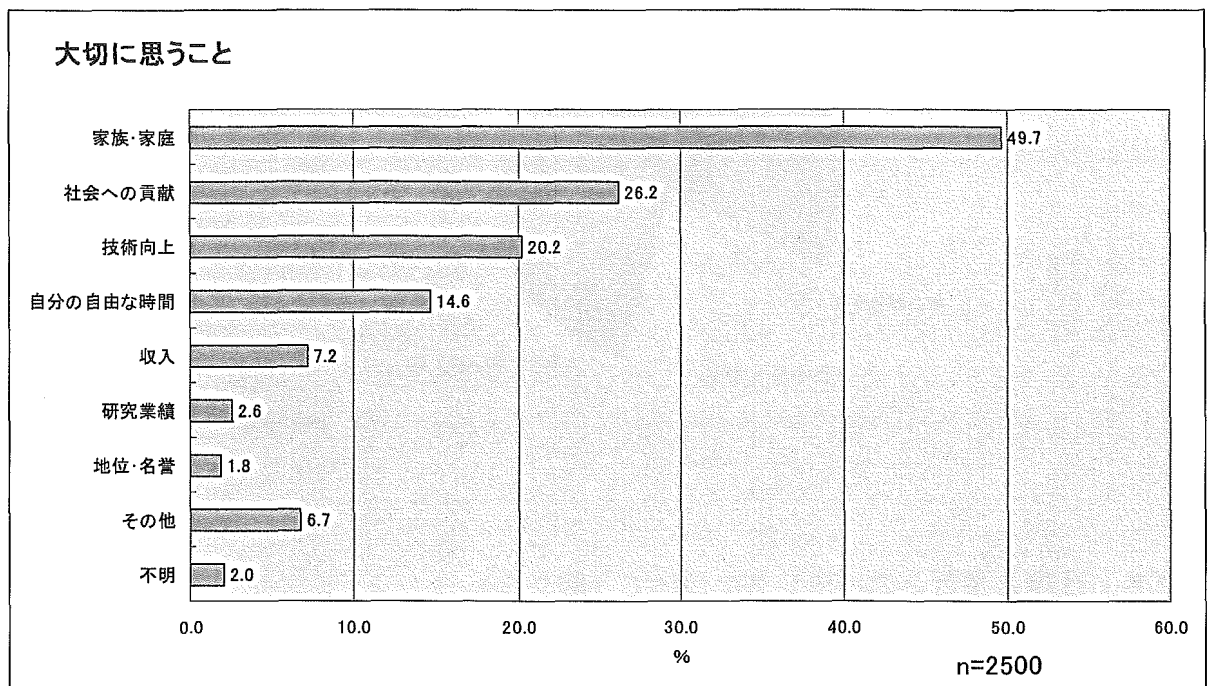
「仕事も自分の生活も同じくらい大切にする」が51.3%で、「自分の生活も大切にするが、どちらかという仕事のほうを大切にする」が21.3%、「仕事も大切にするが、どちらかという自分の生活のほうを大切にする」が17.8%であった。



[6] 大切に思うことについて（問24）

問24 最も大切に思うことは何か（複数回答として集計）

「家族・家庭」が最も多く、49.7%であった。ついで、「社会への貢献」が26.2%、「技術向上」が20.2%であった。

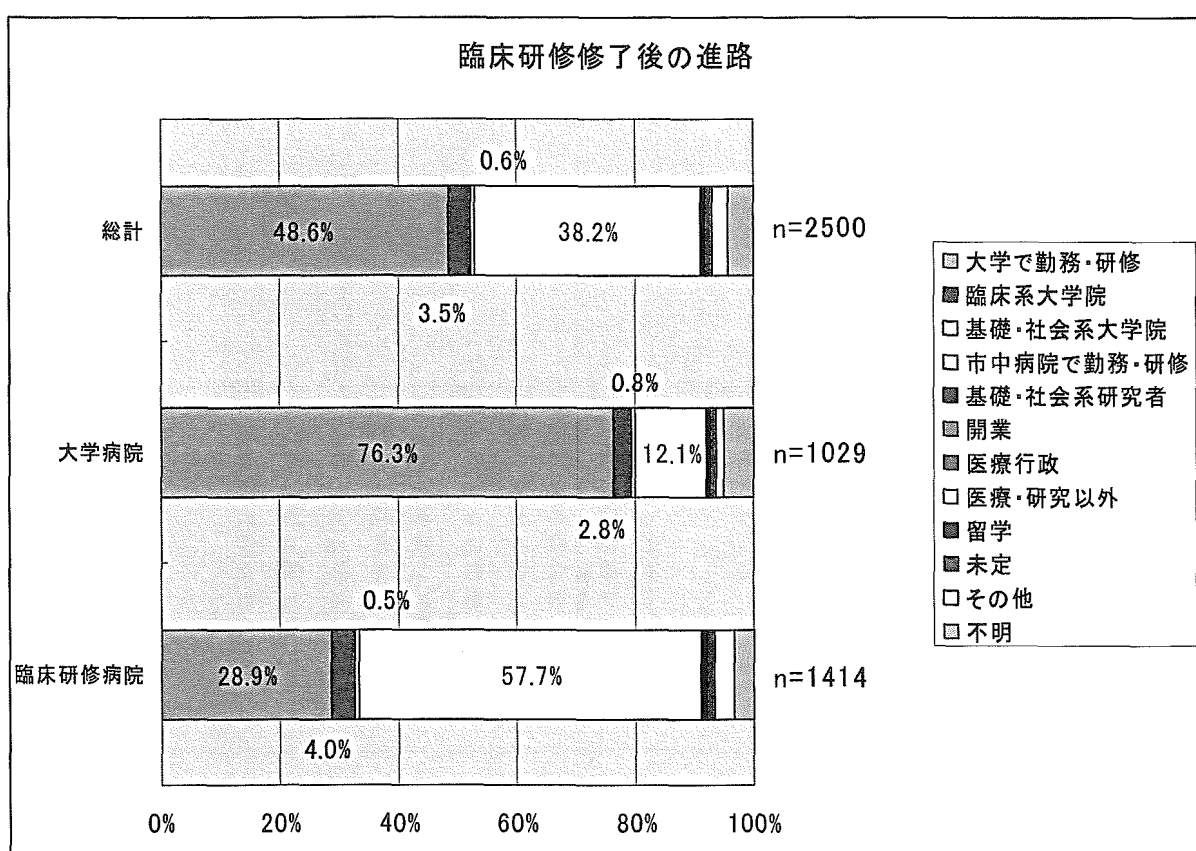


【3】研修医のプログラムを管理している病院の種類による集計

〔1〕研修医のプログラムを管理している病院の種類別にみた臨床研修修了後の進路

大学病院で臨床研修を行った者では、研修終了後に大学で勤務・研修を行う者が76.3%であった一方、臨床研修病院で臨床研修を行った者では、28.9%であった。

一方で、大学病院で臨床研修を行った者では、研修終了後に市中病院で勤務・研修を行う者が12.1%であった一方、臨床研修病院で臨床研修をおこなった者では、57.7%であった。

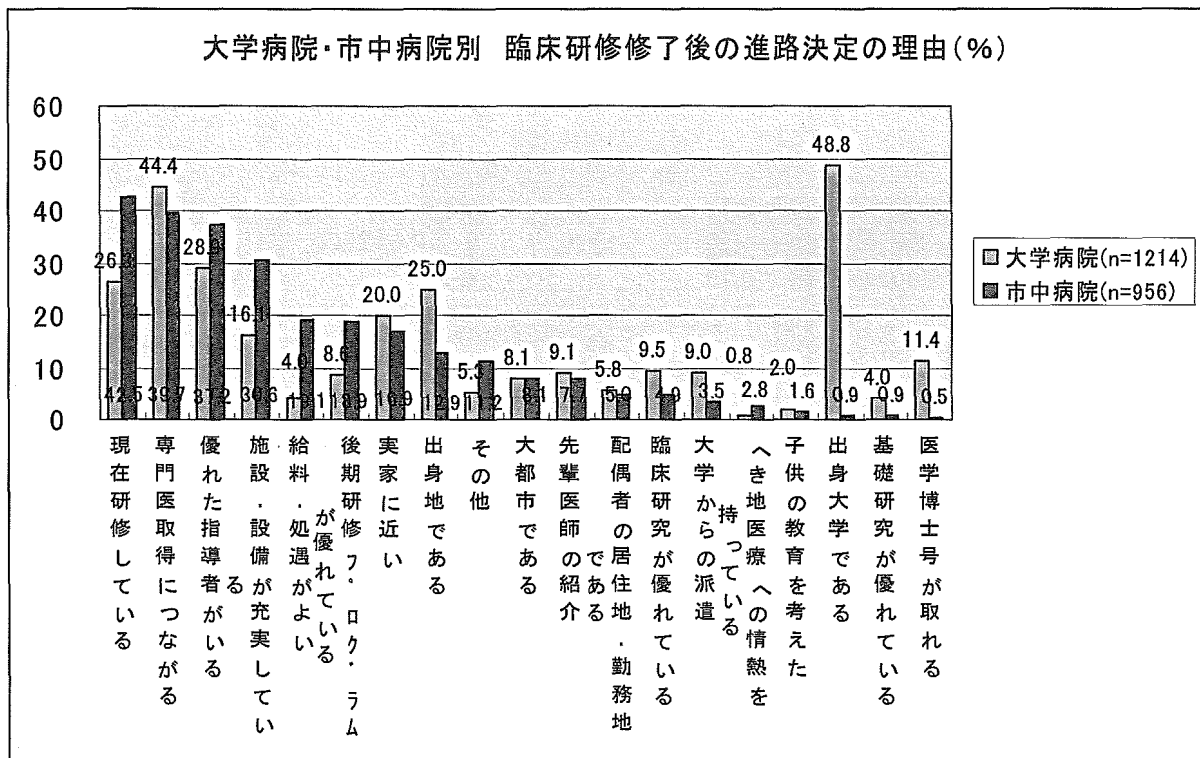


【4】臨床研修修了後の進路別にみた集計

〔1〕臨床研修修了後の進路を大学病院・市中病院で分けたときの勤務先・研修先の選択理由

大学病院を進路に選んだ理由は、「出身大学である」(48.8%)、「専門医取得につながる」(44.4%)が多かった。

市中病院を進路に選んだ理由は、「現在研修している」(42.5%)、「専門医取得につながる」(39.7%)が多かった。

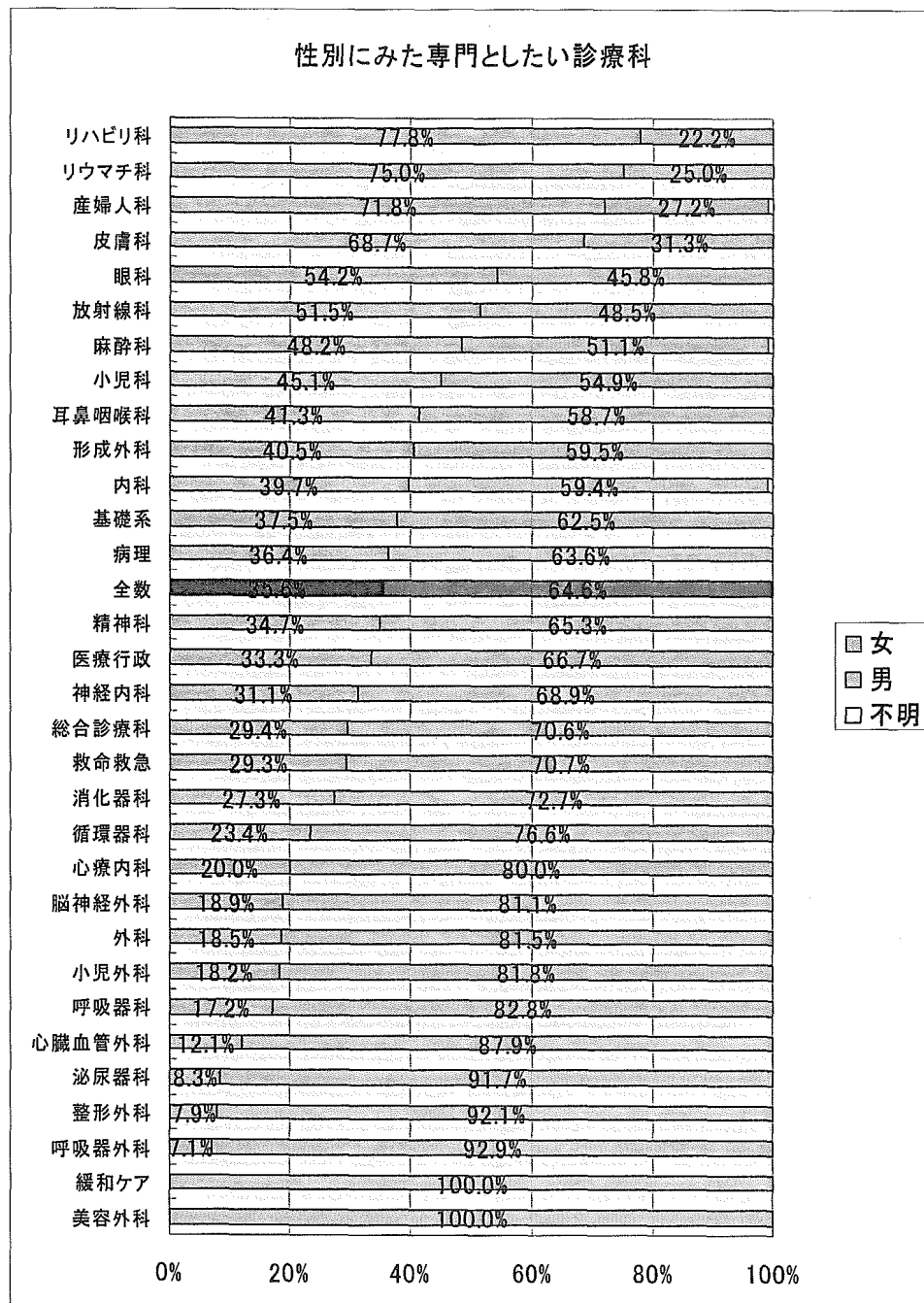


【5】性別による集計

〔1〕性別にみた専門としたい診療科

診療科の希望を性別に見ると、女性医師の割合が高いのは、リハビリテーション科（77.8% n=9）、リウマチ科（75.0% n=4）、産婦人科（71.8% n=103）であった。

女性医師の割合が低いのは、美容外科（0.0% n=5）、緩和ケア（0.0% n=4）であった。

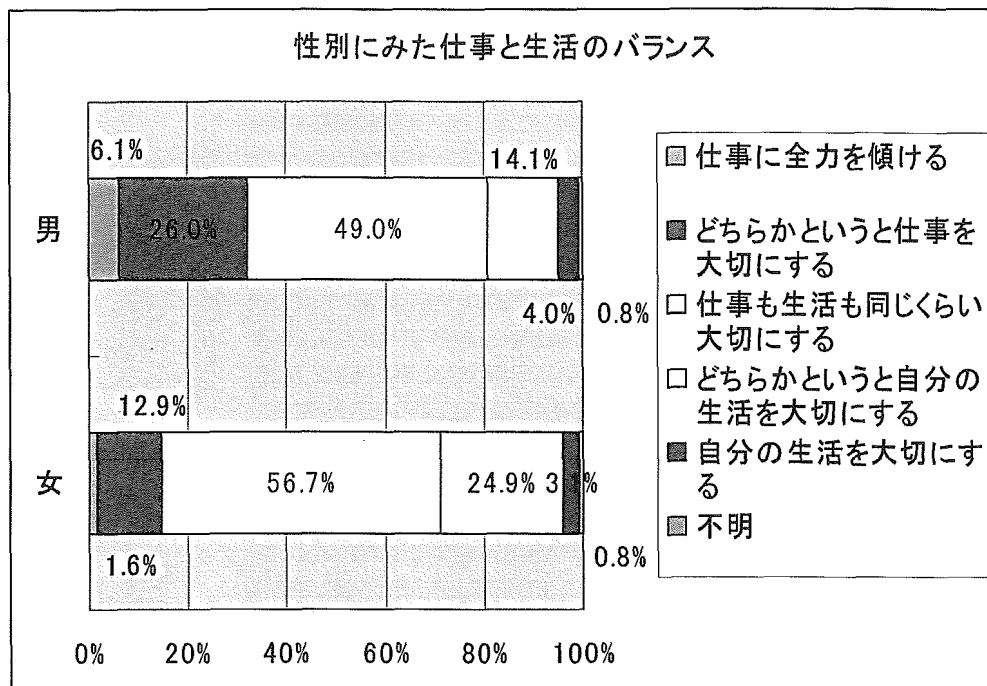


※全数は、問 19 で専門とする診療科を決めていると回答した者。

〔2〕性別にみた仕事と生活のバランス

仕事と生活のバランスを性別にみたところ、仕事を優先する（「仕事に全力を傾ける」、「どちらかという仕事を大切にする」の計）意見の割合は女性よりも男性が高かった（男性 32.1%、女性 14.5%）。

一方で生活を優先する（「どちらかという自分の生活を大切にする」、「自分の生活を大切にする」の計）という意見は女性の方が男性よりも高かった。（男性 18.1%、女性 28.0%）。



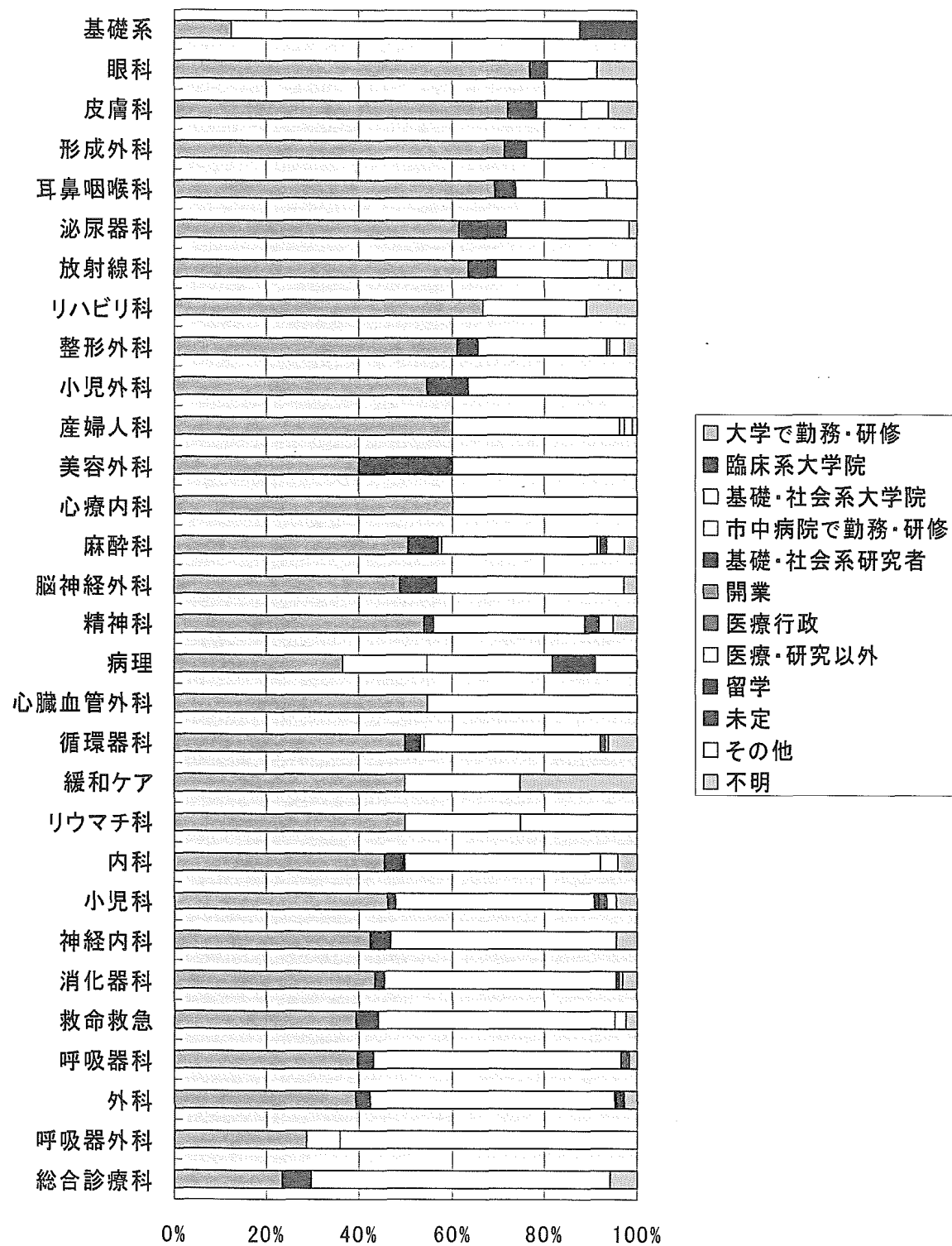
【6】専門としたい診療科別の集計

〔1〕専門としたい診療科別にみた臨床研修終了後の進路

臨床研修終了後の進路を診療科別にみると、眼科（80.7%）皮膚科（78.3%）、耳鼻科（73.9%）といった診療科では大学で研修を行う割合が高い（大学での勤務・研修には、大学院への進学も含む）。

一方、総合診療科（64.7%）、呼吸器外科（64.3%）では、市中病院で勤務・研修を行う割合が高い。このほか外科では、52.7%、小児科では 42.9%が市中病院で研修を行うと回答している。

診療科別臨床研修修了後の進路



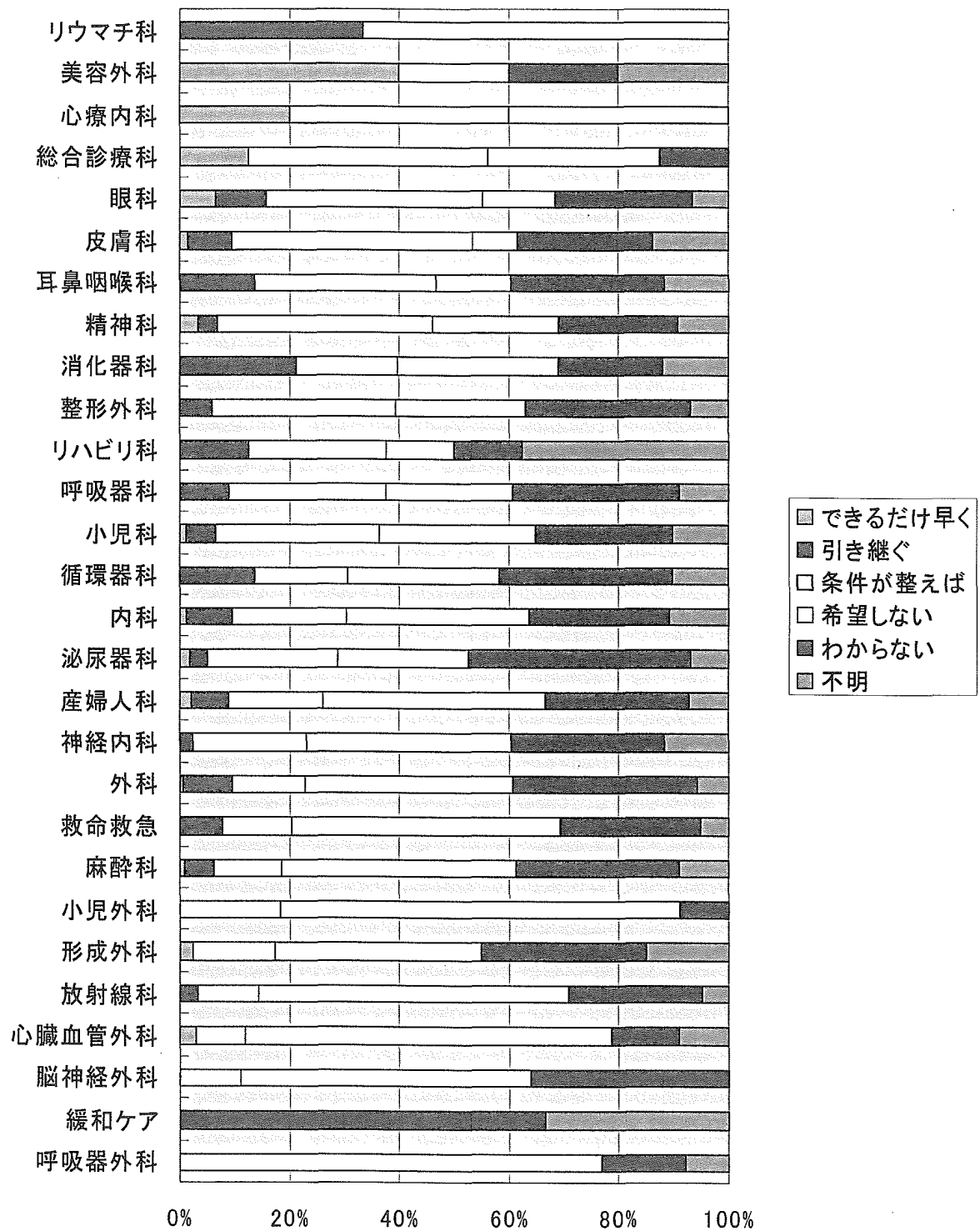
※大学で勤務・研修を行う（大学院への進学を含む）割合順。

〔2〕専門としたい診療科別にみた診療所の開業の希望

開業の希望を専門としたい診療科別に見ると、開業の希望がある者（「できるだけ早く」、「引き継ぐ」、「条件が整えば」、の計）は、リウマチ科（100.0% n=4）、美容外科（60.0% n=5）、心療内科（60.0% n=5）が多かった。さらに、総合診療科（56.3% n=16）眼科（55.3% n=76）、皮膚科（53.4% n=73）、耳鼻咽喉科（46.5% n=43）が続いている。

一方、呼吸器外科（n=13）、緩和ケア（n=3）では開業の希望がある者はいなかった。

診療科別にみた開業の希望



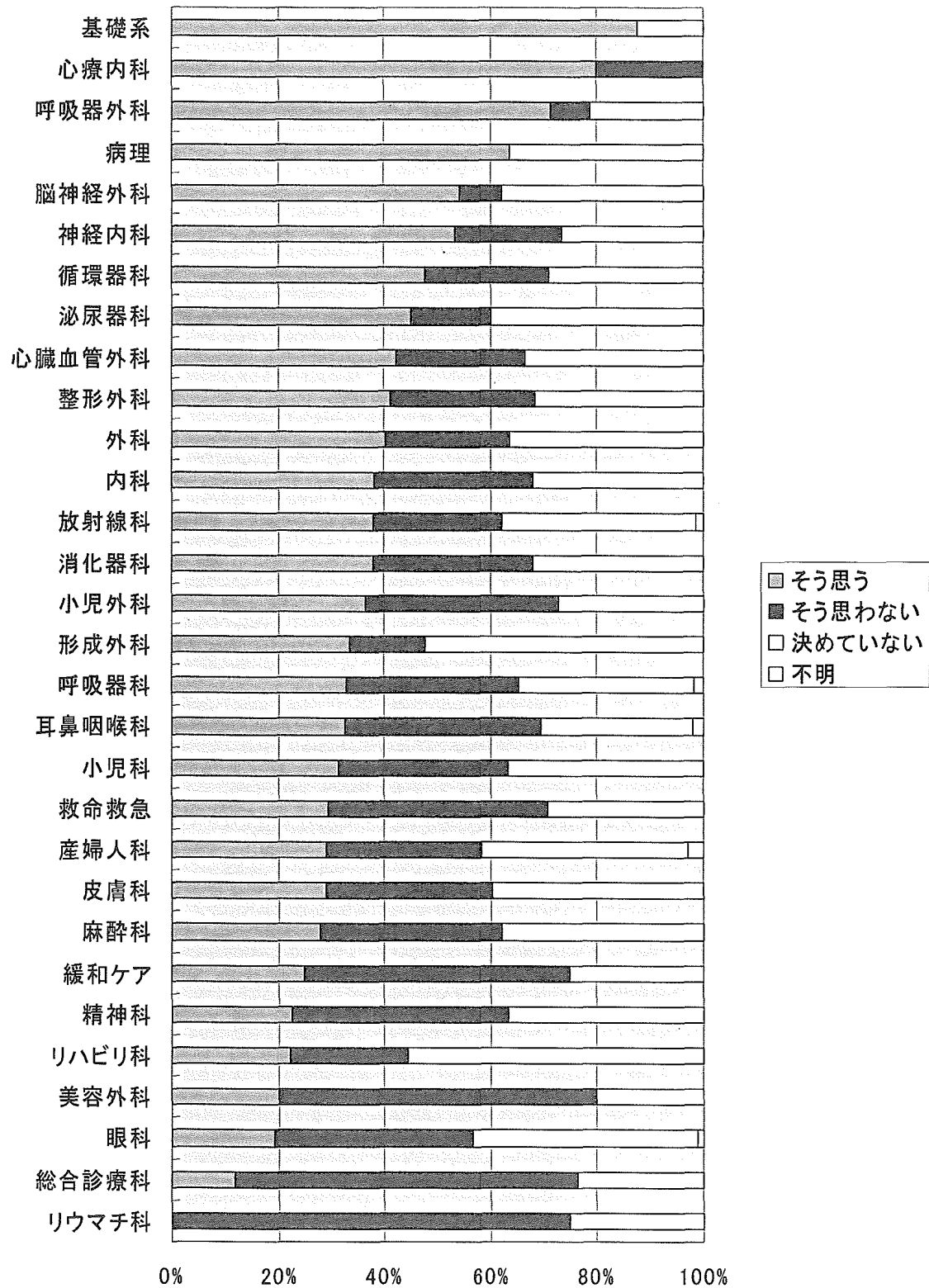
※開業を希望する割合（「できるだけ早く」、「引き継ぐ」、「条件が整えば」の計）順

[3] 専門としたい診療科別にみた医学博士号取得の希望

医学博士号を取りたいと思うかを診療科別に見たところ、希望する割合が高かったのは基礎系（87.5% n=8）、心療内科（80.0% n=5）、呼吸器外科（71.4% n=14）であった。

希望する割合が低かったのは、リウマチ科（0.0% n=4）、総合診療科（11.8% n=17）、眼科（19.3% n=83）であった。

診療科別にみた医学博士号取得の希望

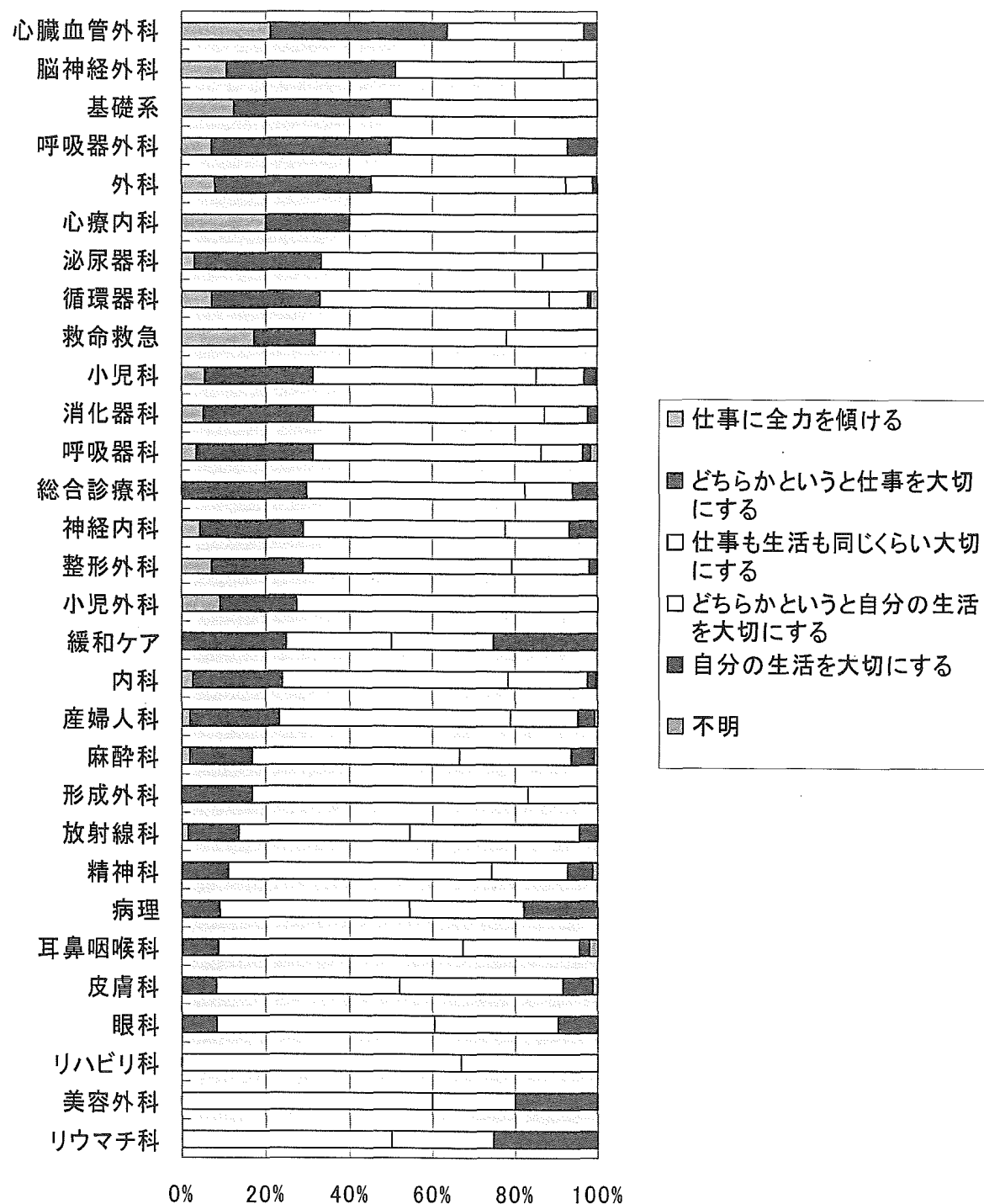


[4] 診療科別仕事と生活のバランス

仕事と生活のバランスをどう思うかを診療科別にみたところ、仕事を優先する（「仕事に全力を傾ける」という意見を含む）意見の割合が高かったのは、心臓血管外科（63.6% n=33）、脳神経外科（51.4% n=37）、基礎系（50.0% n=8）であった。

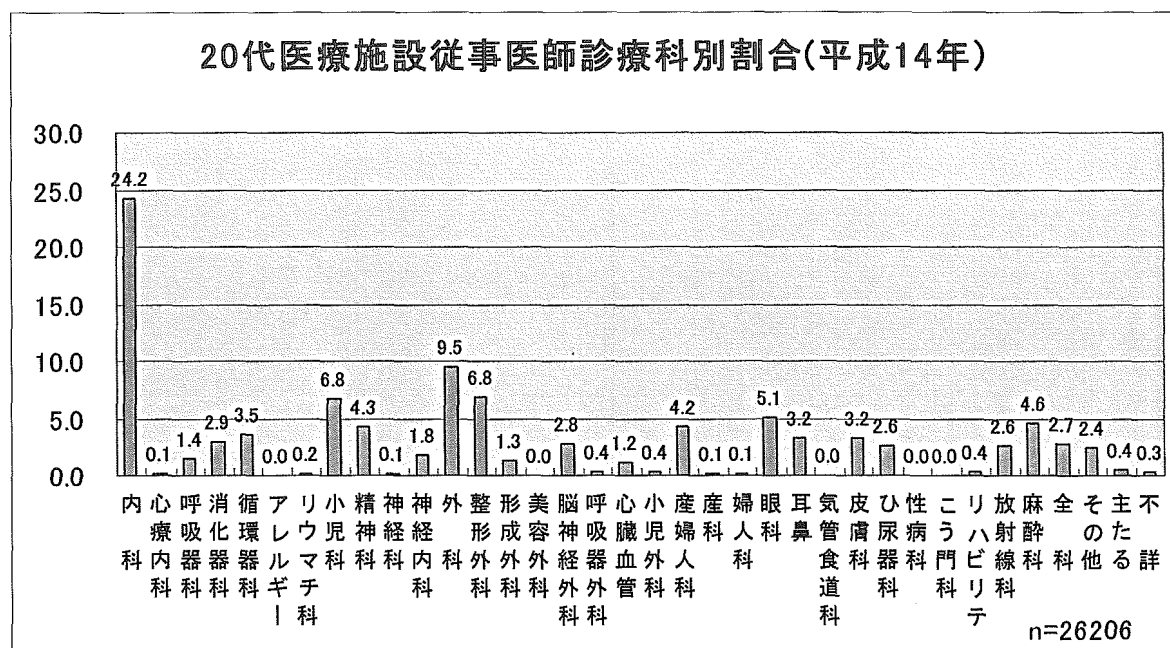
一方、生活を優先する（「どちらかという自分の生活のほうを大切にする」、「自分の生活を大切にする」の計）という意見の割合が高かったのは、リウマチ科（50.0% n=4）、緩和ケア（50.0% n=4）、皮膚科（47.0% n=83）であった。

診療科別仕事と生活のバランス



※仕事を大切にする（「仕事に全力を傾ける」を含む）割合の高い順

(参考)



厚生労働省大臣官房統計情報部 平成14年医師・歯科医師・薬剤師調査

※ 平成16年度より開始した医師臨床研修制度の影響を除くため、平成14年調査結果を提示した。